

広げよう

第8号(2005.1)

コミュニティの

輪

彩の国コミュニティ協議会会報



防犯のまちづくりシンボルマーク

「街を守ろう」というイメージで「優しい心の雰囲気を後ろのキャラクターに持たせた」埼玉県立伊奈学園総合高等学校 大越小百合さんの作品

主な内容

- P 2 彩の国コミュニティ協議会平成16年度定期総会開催
会長あいさつ
「彩の国コミュニティ協議会のあり方検討委員会」設置
記念講演
- P 6 埼玉県防犯のまちづくりシンボルマークの決定！
- P 7 平成16年度顕彰事業
シラコバト賞
ふるさとづくり賞
全国花いっぱいコンクール
生田塚団地自治会花のコミュニティ内閣総理大臣賞受賞
- P12 県民の日協賛事業

彩の国コミュニティ協議会平成16年度定期総会開催

彩の国コミュニティ協議会平成16年度定期総会を平成16年6月10日に開催しました。当日は、彩の国コミュニティ協議会会長の上田清司から御挨拶を申し上げ、金田副会長の議事進行により、平成15年度事業報告・収支決算、平成16年度事業計画（案）・収支予算（案）などについて審議が行われ、いずれも原案のとおり承認されました。

また、「(仮称)彩の国コミュニティ協議会のあり方検討委員会」を設置することを事務局から報告いたしました。

第2部の記念講演では、「国体開催を目前にしたスポーツ振興とコミュニティ」と題し、埼玉県ラグビーフットボール協会理事長の尾崎良己氏から御講演いただきました。

会長あいさつ

御紹介をいただきました埼玉県知事の上田清司でございます。本日は彩の国コミュニティ協議会の平成16年度の総会を御案内させていただきましたところ、本当にお忙しい中、各界のリーダーの方々にはたくさんお集りをいただきまして本当にありがとうございます。

いうまでもありませんが、彩の国コミュニティ協議会は昭和54年からスタートして今年は25年目の節目の年で、それぞれ地域社会のリーダーの方々が、いい意味での地域社会をつくるために、色々な角度から御支援と御協力をいただいております。そして、そうした皆さんの御努力によって地域社会のコミュニケーションの力、あるいは地域社会の教育力というものが、本来だったらもっともっとひどくなるどころであったのかもしれませんが、皆さんのお陰でかろうじて、ある意味での崩落というものをおくい止めていただいているという認識を私自身は持っております。今日は総会の中で、そしてまた、後ほどの記念講演の中で、改めてこれからの地域社会のありうるべき姿について御議論もあるかと思っております。

今年は、本県で37年振りに「彩の国まごころ国体」が開催されます。まさしく国体は、単に県の国体局がやるものでもありませんし、あるいは各種のス



スポーツ関係の皆様方がやるものではありません。多くの方々の協力なしにはやることができない、そして各市町村における会場においても、それぞれの市町村のリーダーの方々が色々な形で協力しなければいけない、それが国体なのではないかと思っております。

そういう意味では、今度の「彩の国まごころ国体」、あるいは「全国障害者スポーツ大会」、これはまさに地域社会の結集力、地域社会の共同体としての力が問われるイベントではないかなと受け止めております。そういう意味で皆様方のある意味での力というものが、埼玉県を支え、埼玉県を表す形になるのではないかと思います。当時、人口が330万人だったと聞いておりますが、現在、704万人を超え、当時の2倍以上の人口になったわけでありまして。まさしく、マンパワーが、マンパワーとして生かされるかどうか問われるのかなと思っております。

残念ながら地域社会において、ひたたくり、路上

強盗、あるいは侵入犯等々が多くなってきました。警察も全力を挙げてこのような犯罪に対して取り組んでいただいているのですが、逆にいうと、私は、警察は凶悪犯だとか一般の市民で捕らえることができないような強力な犯罪グループに対して立ち向かっていただき、我々は地域社会の中でひたたくりだとか、侵入犯だとかいう、そういう人たちが、できごころも起きないような、結束力のある地域社会をつくった方がいいと思います。

県といたしましても警察の力ももちろん大事なことですけれども、それ以上にNPOや様々な市民団体の皆さんたちの協力の中で、もう1回、「世界一安全」と言われる日本の地域社会をつくってみたいと思っております。

最近、悲惨な事件の多い教育関係においてもそうだと思います。こどもは家庭でもあるいは学校でも育ちます。しかし、間違いなく「まち」がこどもを育てる部分もあると思います。自分たちのふるさとや共同体の中でこどもたちが育つ部分もあると私は思います。そういう意味で防犯の観点からも、あるいは教育の観点からも、「地域の力」、とりわけコミュニティ協議会に結集されておられますそれぞれの分野のリーダーの皆様方の力というものが大変大きな役割を持ちます。改めて、この機会をお借りしまして今後の御支援と御協力をお願い申し上げます。どうぞよろしく申し上げます。

「彩の国コミュニティ協議会のあり方検討委員会」設置

「彩の国コミュニティ協議会」は、昭和54年6月の設立以来25年間にわたり、住民や企業、市町村、県の連携により、県民の幸せを目指し心のふれあう豊かで住みよい地域社会の構築に向けて様々な事業を展開してきました。

しかし、最近は、身近な犯罪や青少年の犯罪増加等により、地域の安全が脅かされるなど、地域社会を取り巻く環境が大きく変わってきています。

こうした環境の変化に伴う課題を解決するための

より効果的なコミュニティ施策を考えていく必要があります。さらに、県の財政状況が極めて厳しい中、より効率的な運営や事業展開のあり方について検討する必要があります。

そこで、当協議会のこれまでの成果を踏まえ、当協議会の新しいあり方について検討するため、「彩の国コミュニティ協議会のあり方検討委員会」を設置しました。

・委員会のメンバー

委員長	坂本 好司	埼玉県公民館連合会副会長
副委員長	榎本 高	春日部地域市町コミュニティ協議会連絡会議会長
委員	矢部 憲春	小さな親切運動埼玉県本部事務局長
委員	宮崎 俊夫	埼玉県農業協同組合中央会総務部長
委員	上岡 悦子	(社)ガールスカウト日本連盟埼玉県支部支部長

これまで、3回の検討委員会を開催し、今後の協議会のあり方について、検討していただきました。委員の皆様からは、コミュニティ協議会のPRの必要性、自主財源の確保、コミュニティ意識の一層の

普及等、多くの御意見をいただきました。この検討結果については、平成17年3月に開催する平成16年度第2回企画委員会において御報告させていただきます。

記念講演「国体開催を目前にしたスポーツ振興とコミュニティ」

～第5回全国高校選抜ラグビー大会を振り返って～

講師 尾崎 良己氏（埼玉県ラグビーフットボール協会理事長）

みなさん、こんにちは。私は、現在、日本協会選抜大会実行委員であり、埼玉県ラグビー協会理事長であり、埼玉県立妻沼高校の教諭でもあります。そして、昭和53年から平成12年まで、埼玉県立深谷高校でラグビー部の監督をしておりました。今日は、私のラグビー協会での活動のお話や国体に参加し、感じ得たことを話したいと思います。

全国選抜ラグビー大会を開催するまで

県立深谷高校のラグビー部監督をしていた平成元年、全国高校ラグビー大会会議があり、開催地について採決が行われたのですが、関東と関西の強い対立から、全国大会開催は暫く凍結ということになりました。関東協会に何とかならないかと頼み込み、ようやくの思いで東日本高校選抜大会が開催されました。

3年目になると、関東協会から全国の強豪チームを集めて試合をしようという声上がり、東日本高校選抜大会兼関東協会招待試合、つまり事実上の全国大会が始まりました。この大会は7年間続き、徐々に関西や九州は、関東協会を羨むようになり、ついに第1回の全国大会が平成12年に開催されました。16チームで5日間、1回戦から決勝戦まで熊谷で行われましたが、第5回からは、私のかねてからの希望でもあった24チームで6日間の大会に変わりました。その年は、私がかつて育て上げた深谷高校が大活躍し、特にベスト4の試合で、残り1分のロスタイムに40mのペナルティゴールが成功した時には、皆が感動し涙しました。

決勝戦は、深谷高校対天理高校でとても勝てる相手ではなく大差で負けましたが、善戦しました。そんな試合を見て私は、ラグビーのノーサイド精神（試合終了後選手達がお互いの健闘を讃え合うこと）を改めて実感いたしました。



第22回埼玉国体要員として参加

話はさかのぼりますが、私は昭和42年に開催された第22回の埼玉国体に国体選手として参加しました。日体大、筑波大からその年とその前の年の2年間で12人もの強い選手が入ってきました。だからといって勝てるわけではありません。当時の監督は、熊谷工業高校などで活躍した有名な先生で、「教員も高校も社会人も全て勝てよ」と言われましたが、結局みんな負けました。この大会では、33種目中、埼玉県競技団体が優勝したのが確か12～13種目、準優勝が10種目くらいでした。3位は極少数という中、ラグビーは5位でした。

監督も情けなかったでしょうが、私も国体選手としてこの結果では、学校に行くのも恥ずかしくてとても情けない経験をしました。

ラグビーチームの強化

平成3年、今年の第59回の国体開催地が埼玉と決まり、私たちは以前のような情けない思いをしないためにも、平成16年の埼玉国体までに社会人ラグビーを強化しようと取り組み始めたのです。

当時、埼玉県には強いチームがなく、有力な企業や自衛隊にもあたりましたがオリンピック種目になるので強化はできないとの返事でした。

そうしているうちに時間が過ぎ、東京のセコムという会社が大宮に営業所を持っていたので、埼玉に誘致して国体の代表にしました。しかしセコムは、埼玉ではトップクラスに入るが、東京では下位の方に位置し、当然関東大会では勝てませんでした。しかし、時代が不景気となり、大企業が有力選手を採用できなくなり、次々と大企業が抜けていく中、セコムだけが残りました。

近年の国体は安定して2位か3位をとっており、やがて「埼玉の青年部門は強い」と言われるようになりしました。

また、少年部門の強化にも努めるようになりしました。かつては埼玉県内で国体予選をし、そこで優勝したチームの監督が埼玉県代表の監督となっていました。その監督は、その高校の部員プラス他から2、3人を補強し、大会に臨んでいました。しかしこれでは一番強いチームとは言えないのではないかと。やはり埼玉県全域から一番強い人達を選び、チームをつくりたいという声次第に上がるようになり、私もずっと思っていました。

こう意見するためにも、「まずは優勝しなくては」と考えていた頃、深谷高校が優勝し、その結果少年部門は、県全域から有力選手を集めたオール埼玉で結成されました。そして監督には、私が就任する話もありましたが、若手の伊奈学園の監督さんに依頼しました。期待通り勝ち進み、熊本国体まで進みました。私は優勝するかと思っていましたが、結果は負けました。

それからまた強化策を考え、5か年計画というのを立てました。そこで重要なのが試合の組合せです。組合せを作る際にはきちんと文部科学省の立会人のもとに行います。この組合せは、3年以内に良い成績を修めているかいないかでだいぶ違ってきます。埼玉の高知国体での成績は、少年が2位、青年が1位でした。去年の静岡国体では青年は1番シードでした。惜しくも負けましたが、今年の埼玉国体には青年は3番シードで出ます。少年は去年の静岡国体で1位になり、今年の埼玉国体は1番シードになりま

した。そして強豪と言われている大阪が16番になり決勝までは当たることがなくなりました。

結局、5か年計画と言いましたが、大切なのは3年間の結果なのです。そして、あとは9月24日の組合せ会議によって決まります。運良く強豪チームを避けることができれば、私の予想としまして、青年が1位で64点、少年が2位で56点、総合で120点で優勝するでしょう。みなさんどうぞ期待してください。

埼玉国体

さて国体についてのお話ですが、今やスポーツといえば、新聞、テレビ等で毎日ニュースとして流れており、重要なコミュニケーションの手段となっています。スポーツの話題はいつも身近にあると思います。

昭和35年、西ドイツで一般の人が余暇を過ごす手段として、スポーツを楽しむこと、人間の生活を豊かにするスポーツをやるとういう動きが出てきました。また日本では、昭和21年の敗戦後、荒廃した国土とともに青年の心も荒廃していると思われた中、京都において第1回の国体が行われました。そして国体はスポーツの振興、普及、発展に大きな役割を果たしました。

私は、教員チームに国体選手として入ってきました。他にも様々な先生がそれぞれの種目で埼玉国体の選手として入ってきて、それぞれの立場でスポーツを振興してきました。私はスポーツを学校体育というところで進めてきたわけでありました。そして時代とともに、ゴルフやビーチバレー等色々な種目のスポーツが入ってきました。その中で、制度も変わり、国体への出場は一度のみ、より多くの方に国体に出てもらおうという考えになりました。

ですから今、スポーツはみなさんの身近にあります。そして地域の方々が国体にどう協力するか、これはやはり、実際試合会場に行き、試合を観てほしいと思います。例えば、「私のおじいちゃんが北海道の人だから北海道を応援しよう。」とか、そん

な気持ちでいいから応援してほしいのです。その応援が声援になります。声援が後押しとなって、選手が力を出します。

去年、静岡国体の宮城対埼玉で、宮城は高卒ばかりの自衛隊チーム、一方で埼玉は大卒ばかりのセコム、圧倒的に埼玉が強いはずですが、しかし、地元の小学生たちが旗を振りながら、「宮城がんばれ。」と応援していましたら、宮城がその声援に応え予想以上の頑張りを見せました。結果は、何とか埼玉が22対19で競り勝ちましたが、いかに声援の力が大きいかと感じました。

熊谷では今、会場に花いっぱい運動と言いまして、花を植えています。皆さん、大会期間中にその花が元気に育っているか育っていないか見に来てください。そのついでにちょっと、陸上、体操、ラグビー

競技場が近いですから観てあげてください。そしてよかったら、「私もやってみよう。」とか「こどもにやらせてみたい。」とか思ってほしいのです。また、国体の開催により郷土を想う心や郷土を知ることができると思います。

宮城国体のことですが、夕食の牡蠣が不漁であった時、「地元の選手は食べないでください。選手のみなさん、一つでも食べてください。」とあり、私は一つ御馳走になりました。地元の方々が、どうしても選手のみなさんに「おいしい牡蠣を食べてもらいたい」という暖かい心が伝わりました。人の情け、人の心も国体の開催から出てくるものだと思います。そして、埼玉国体も是非そうでありたいと願います。本日は、どうもありがとうございました。

(拍手)

埼玉県防犯のまちづくりシンボルマークの決定！



安全・安心 ぼうはん
みんなで防犯

防犯のまちづくりシンボルマーク

埼玉県・埼玉県警察本部

このステッカーを見かけたことはありませんか。県では、犯罪のない安心して、安全に暮らせる埼玉県の実現に向けて、犯罪の機会を減らし、犯罪を起こさせにくい地域づくりを進めるため、県民総ぐるみの「防犯のまちづくり」を推進しています。

明日の埼玉を担う若い方々に、防犯や地域の安全について考えてもらうために、平成16年3月下旬～5月上旬にかけて、県内の中高生の皆さんに、防犯のまちづくり「シンボルマーク」、「マスコットマーク」を広く募集したところ、高校4校、中学校19校の合計23の学校から、292作品という多くの応募を

いただきました。

埼玉県防犯のまちづくりシンボルマークを選定するために、彩の国コミュニティ協議会防犯のまちづくりシンボルマーク等選定委員会を設置し、(社)埼玉デザイン協議会理事長の池辺国彦委員長ほか7名の委員で選考を行い、彩の国コミュニティ協議会会長でもある上田知事が最優秀作品を選定しました。

入賞作品は、平成16年10月15日埼玉会館で行われた「防犯のまちづくり県民大会」において、表彰されました。

埼玉県知事賞	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	大越 小百合
埼玉県警察本部長賞	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	高城 ちひろ
埼玉県教育委員会教育長賞	加須市立加須西中学校	畑上 朝海
彩の国コミュニティ協議会会長賞	川里町立川里中学校	松村 祥子
彩の国コミュニティ協議会特別賞	埼玉県立大宮光陵高等学校	畠山 葵
彩の国コミュニティ協議会特別賞	埼玉県立大宮光陵高等学校	吉田 泰一郎

そして、埼玉県知事賞となる最優秀作品に選ばれた埼玉県立伊奈学園総合高等学校大越小百合さんの作品は、全県的な防犯のまちづくりの普及・啓発を図るためのシンボルとして、巡回事業者による防犯活動のステッカー、啓発用チラシ等に活用されています。



平成16年度顕彰事業

例年、11月14日「県民の日」に開催している「県民の日記念式典」につきましては、第4回全国障害者スポーツ大会の開催期間と重なったため、今年は、11月22日（月）に川口総合文化センターリリアで開催しました。

彩の国コミュニティ協議会では、シラコバト賞、全国花いっぱいコンクール、ふるさとづくり賞を受賞（入賞）された方々の表彰を行いました。

シラコバト賞

シラコバト賞は、ボランティアで週1回公民館にお花を生けたり、毎日公園の公衆トイレを清掃したり、こどもたちの登下校時の見回り等、日ごろから、住みよい地域づくりのために長年活動している個人、団体の方に贈られる賞です。今年度も274名という大変多くの方が推薦され、彩の国コミュニティ協議会で審査・選考を行った結果、199名の方が受賞されました。

来年度も6月頃に募集する予定です。募集冊子は、公民館やコミュニティセンター、市町村コミュニティ協議会等で配布します。また、彩の国コミュニティ協議会ホームページにも推薦方法等を掲載します。皆さんの身近にそのような活動をされている方がいましたら、是非御推薦ください。

ふるさとづくり賞

ふるさとづくり賞は、斬新な発想による個性豊かで活力のあるふるさとづくりに取り組んでいる、優れた集団、市町村、企業に贈られる賞です。

平成16年度は、県審査会で優秀賞に輝いた1市、2団体を中央審査会に推薦したところ、「戸田市」が市町村の部において、ふるさとづくり賞振興奨励賞を受賞しました。

今回は、県審査会で優秀賞を受賞した1市2団体の活動を紹介します。

《平成16年度県審査結果》

【集団の部】

優秀賞	清久コミュニティ連絡会 ・子供の育みを支える「ふるさとづくり」	久喜市
優秀賞	第一住宅花の会 ・花ボランティアで子供たちのふるさとを花いっぱい	坂戸市
奨励賞	西城健康クラブ ・健康活動とミニ・デイ	妻沼町

【市町村の部】

優秀賞	戸田市 ・出生前から始まる保健部門の子育て支援	戸田市
-----	----------------------------	-----

戸田市

県の南部に位置し、荒川を隔てて東京都に隣接している戸田市は、過去10年間にわたり出生率が13.0を超えることもがとて多しい市です。

このため、子育てについての保健需要が高く、市民から寄せられた様々な要望に応えるため、生まれ

に2回加えて5回行っており、いずれも80%以上の乳幼児が受診しています。

健診以外の電話相談や、市内4会場で実施している「とだっ子健康相談」も好評で、年間2千人を超える来所者は、リピーターも多く人気です。

また、思春期の児童・生徒に対する支援では、小学6年生を対象に、実際に赤ちゃんに触れ合うことで、児童の父性や母性を育む、赤ちゃんふれあい体験学習や専門職による思春期の対面相談窓口「グリーンスタッフルーム」があります。ここでは市内の児童や生徒、その保護者が抱えるいじめや不登校、性の問題など様々な相談に応じています。

戸田市では、こどもの成長に沿った「とだっ子支援」を行い、成果を上げています。



上田会長からの表彰状贈呈

る前から小・中学生まで、市独自の事業で子育て支援をしています。特に、働いている妊婦さんで、出産後も働き続けようと思っている方を対象とした、ワーキングプレママクラスは、全国的にも戸田市独自のものだそうです。

出生後の新生児訪問は、訪問率が60%以上と都市部としては非常に高く、乳幼児健診は、法定の3回



清久コミュニティ連絡会（久喜市）

清久コミュニティ連絡会は、公民館と地域の連携を図るため、清久コミュニティセンター・西公民館を利用している団体が中心となり、平成14年に発足しました。現在、44団体が入会し、会員数は約1,200名です。連絡会では、公民館と諸団体、地域住民とのパイプ役として、特に地域でこどもを育てる活動に力を入れて取り組んでいます。

公民館の出前事業であるそば打ち体験事業が、市内の小学校で採り上げられたことから地域と学校との交流が深まり、合同で実施するイベントが増えました。

その一つに、きよく大運動会があります。これは、従来、別々に実施していた清久小学校の運動会と地区の市民体育祭を、学校と公民館が合同で企画・実施しているもので、こどもから大人まで楽しめるイベントとなっています。

その他、端午の節句や七夕など、昔からの年中行事を復活させる活動や地区だより「きよく」を発行するなど、様々な活動を通して地域住民のコミュニティ意識の醸成を図っています。

第一住宅花の会（坂戸市）

平成14年に結成された第一住宅花の会のメンバーは、現在60名。昭和40年代に戸建住宅団地として造成された、第一住宅坂戸団地の花を愛する人たちの集まりです。活動の中心である市民花壇は、放置自動車や不法投棄が後を絶たなかった空き地を整備したもので、第一住宅自治会と市の協働による手づくり花壇です。

花の会では、好きな時に好きな時間だけ、自分にできる事をやるということをもっとに、種蒔きや苗づくり、植え付けなど花壇の管理をしています。会員が丹精込めて育てた花は、自治会のお年寄りに花束にしてプレゼントしたり、希望者に差し上げ喜ばれています。また、坂戸市で今年4月15日から始まった、ガーデニングなどに関心のある方とのコミュニケーションの場として、花壇や個人の庭園な

どを公開し、ともにガーデニングを楽しむ「花いっぱいのみち・坂戸オープンガーデン」事業にも参加し、県内外から多くの方が花壇の見学に訪れるようになりました。

第一住宅花の会では、花づくりを通じて地域住民のふるさと意識の醸成に努めています。

全国花いっぱいコンクール

花いっぱいコンクールは、花や緑を育てることを通じて、ふれあいと思いやりのある美しい地域社会づくりに取り組んでいる学校や職場、地域の団体等を表彰するものです。

平成16年度は、県審査会において最優秀賞となった、「鴻巣市生出塚団地自治会花のコミュニティ」（職場・地域の部）と「川里町立屈巢小学校」（学校の部）の2団体と個人の部として鎌田シヅエさん（坂戸市）を中央審査会に推薦したところ、鴻巣市生出塚団地自治会花のコミュニティが、職場・地域の部の最高賞である内閣総理大臣賞を受賞しました。また、川里町立屈巢小学校が文部科学大臣奨励賞、鎌田シヅエさんが日本花いっぱい協会賞を受賞しました。

それぞれの活動について紹介します。



埼玉県知事から内閣総理大臣賞等伝達式
（平成16年12月13日）

《平成16年度県審査結果》

【学校の部】

最優秀賞	川里町立屈巢小学校	川里町
優秀賞	三芳町立上富小学校	三芳町
	鴻巣市立赤見台中学校	鴻巣市
優良賞	庄和町立富多小学校	庄和町
	新座市立石神小学校	新座市
	さいたま市立指扇北小学校	さいたま市

【職場・地域の部】

最優秀賞	鴻巣市生出塚団地自治会花のコミュニティ	鴻巣市
優秀賞	第一住宅花の会	坂戸市
	コスモスinふじつか実行委員会	春日部市
優良賞	東松山市西本宿第二自治会	東松山市

鴻巣市^{おいねづか}生出塚団地自治会花のコミュニティ

(鴻巣市)

今年度、職場・地域の部で最高賞である、内閣総理大臣賞受賞に輝いた同会は、団地内の公園や遊水池など、すべての公共用地に花壇をつくっています。四季折々の花々を咲かせるため、年間に育てる花苗は、約300種類にものぼり、すべて会員の手で種から育てています。これらの花壇には、枯れ草や枯れ枝で作った堆肥を戻すとともに、堆肥を発酵させて冬の花苗の成長を早めるオンドル式ビニールハウスをつくるなど、栽培には様々な工夫をしています。

同会の活動は、各方面から注目されており、他県団体の視察の受け入れやガーデニング教室など従来の活動に加え、今年は、体験ボランティアの受け入れにも積極的に取り組み、ハンディキャップのある方や市内の中学生を受け入れ、ともに作業を行うことにより、花づくりの楽しさを体験していただいています。また、鴻巣市ソーシャルクラブ（精神障害者の会）の訪問を受けて一緒にパンジー花壇をつくるなど、グループ外との交流もますます活発になってきており、花づくりを通じたコミュニティづくりの中心となって活動しています。



川里町立^{くす}屈巢小学校（川里町）

今年度、文部科学大臣奨励賞を受賞した同校では、花を通した人づくりを地域ぐるみで進めています。校内はいつも四季折々の花々で彩られ、休日には地元の人たちはもとより、他の地域からも見学や花摘みを楽しむ人々が訪れるほどです。美化委員会が中心となって、年間計画に沿って、学級花壇づくりや沿道の花壇づくり等に取り組んでいますが、今年のテーマは「日本一の花壇づくり」。美化委員が中心となり、テーマカラーである赤を基調にサルビアやパンジーなど約200種類5万本を植えました。また、町内の福祉施設「川里苑」のお年寄りがお花見に来たり、月1回、こどもたちが花壇づくりのため施設を訪問するなど、親交を深めています。

今年は、校内で育てた花6万株を「彩の国まごころ国体」のフラワーカーペットづくりに提供し、県内外から訪れた方々をお迎えしました。その他にも、保護者を対象にした押し花教室の開催や、花の栽培指導を地元の生産者の方に協力していただくなど、屈巢小学校では、地域の方々とのふれあいを大切に、地域と一体となって花いっぱい運動に取り組んでいます。



鎌田シヅエ氏（坂戸市）

昔から花に興味があり、盆栽やバラづくりをしていましたが、自分だけで楽しむのではなく、地域の方々にも色とりどりの花々を楽しんでもらいたいとの思いから、花いっぱい運動に取り組んでいます。

色とりどりの花々が咲き誇る庭には、天使や動物のオブジェが置かれており、訪れる人々を出迎えています。四季折々の花々を絶やすことなく植えるため、花の仲間と苗を交換をしたり、種から苗を栽培するほか、土づくりに特に力を入れ、腐葉土を手づくりするなど工夫をしているそうです。

また、市が今年度から始めた、個人や団体が丹精を込めて手入れした庭や花壇を一般に開放し、訪れた人々と交流を深める「花いっぱいのまち・坂戸オープンガーデン」事業にも積極的に参加しています。その活動はマスコミにも取り上げられ、連日、県内外から花の愛好家が見学を訪れ、花の話題が尽きません。鎌田さんの活動に触発されて、自宅や地域を花で彩る活動に取り組み始めた方も多く、地域の花いっぱい運動のリーダーとして活躍していらっしゃいます。



県民の日協賛事業

毎年11月14日は「県民の日」。埼玉県が誕生した記念に、県の歴史や風土を見つめ直し、埼玉県に対する親しみや愛着を深める日として昭和46年に定められ、平成16年は、34回目を迎えました。

毎年、県民の日に限って、県内乗り放題のフリー乗車券が発売されたり、県内の施設等が割引きで利用できたりするととてもお得な日であることを御存じでしたか。

彩の国コミュニティ協議会では、県内各鉄道会社に御協力いただき、「県民の日」に県内乗り放題のフリー乗車券及び「県民の日」に県内の主な施設をめぐる彩の国めぐりスタンプラリーを広報するポスター及び鉄道車内中吊り広告を作成・掲出しました。

今年度は「県民の日」が日曜日ということで、多くの県民の方が、フリー乗車券を利用し、県内各施設を回って、スタンプラリーを楽しんでいただきました。



県民の日ポスター

会員募集のお知らせ

彩の国コミュニティ協議会は、「豊かな彩の国づくり」を目指し、県民・企業・行政が一体となって、知恵と力を出し合い、住みよい地域社会づくりを進めるため、様々な取組を展開しています。

こうした取組は、会員の皆さんの協力によって成り立っています。今後、コミュニティ活動をさらに活発にするため、協力していただける新規会員を募集しています。

編集・発行

彩の国コミュニティ協議会
埼玉県県民生活課内

〒330-9301

さいたま市浦和区高砂3-15-1

TEL 048-830-2819

FAX 048-830-4750

ホームページ <http://www.pref.saitama.lg.jp/A01/BQ00/community/com.htm>